

中京女子大学同窓会ニュース

1987. 5. 14 No. 8



もくじ

第7回中京女子大学同窓会総会報告……………	2	昭和53年度大体卒業生の同期会だより……………	11
中京女子大学同窓会関東支部発表……………	3	<新体育館完成記念>ブロンズ像に決定……………	11
新会員のこえ……………	4	同窓会会費納入についてのお願い……………	12
会員のこえ……………	7	同窓会会員名簿発行について……………	12
<特集>母校の発展と私……………	10	あとがき……………	12

第7回中京女子大学同窓会総会報告

第7回総会が、昭和61年10月26日(日)名鉄グランドホテルにおいて、出席者55名を得て開催されました。

当日は、新学長谷岡郁子先生、両学部長をはじめ、関東支部からも支部長吉野トヨ子氏、役員、末村良子・橋爪章子・袴田美智子氏のご出席をいただき盛大に行われました。

なお、総会の議事および決定事項は、以下の通りです。



I. 議事

- 1) 議長選出
- 2) 昭和60年度・61年度活動報告
- 3) 昭和59年度・60年度収支決算報告
- 4) 中京女子大学同窓会関東支部発足について
- 5) 新体育館完成祝について
- 6) 役員改選
- 7) 昭和62年度・63年度活動方針案
- 8) 昭和62年度・63年度収支予算案

II. 決定事項

- 1) 新体育館完成祝については、永久に残るものをと云うことで、ブロンズ像に満場一致で決定されました。

2) 昭和62年度・63年度新役員

- 会 長 高橋知予子
副会長 石川八重・溝口百合子
書 記 西岡茂子・堀川真美
加藤松子・塚本陽子
会 計 永井美奈子・中斉章子・浅野裕子
監 査 杉本文子・縹沢 代
幹 事 河合きく・服部康子・久田富子
中野千鶴子・二宮智子・竹内秀代
田中幸代・西村佐保美・加藤道子
片岡裕子

- 3) 中京女子大学同窓会会員名簿(第2版)の発行
(昭和63年2月発行予定)
- 4) 同窓会ニュースNo.8・No.9の発行
- 5) その他

〈関東支部だより〉

中京女子大学同窓会関東支部発会



関東支部支部長

吉野 トヨ子

(昭和14年度卒)

関東周辺に在住する卒業生数多く、家・体第8回卒・青木みさ子(古瀬)・田上かね子(古沢)両先輩に発起人代表をお願いして、昭和60年11月26日(火)東京・帝国ホテル伊勢源において参加者12名を得て開催しました。

当日、母校より浜田副学長(当時)ご多用にもかかわらずご出席を頂きましたこと一同感激を深めました。また、副学長から内木玉枝先生御逝去以来現在に至る数々の難関難問に対処され、更に大学の今後の展望等についてお話だけたこと誠に意義ある会となりました。

出席者総意をもって本日の会を中京女子大学同窓

会関東支部発会とし、来春6月吉日第2回総会を静岡以北の卒業生に広く呼びかけることとし、これに必要な支部名簿を作成すること等を決めました。

昭和61年6月28日(土)東京・プチモンド新宿店において、静岡・山梨・神奈川・東京・千葉・埼玉各都県から56名出席しました。

本総会には齢、八十有才にして今直ご健在の旧高師・家・体両科第一回卒業の小磯芳子(鶉飼)、伊藤文子(鶉飼)ご姉妹様をはじめ多数大先輩のご参加を得中京女子大学草創期のご苦心談を聞き参加者感激新なるものがありました。

役員は、下記の通り決まりました。

支部長	吉野 トヨ子	(体育)
副支部	水野 久	(体育)
	田中 貞代	(短家)



関東支部総会の記

6月28日梅雨・僅かな晴れ間でした。新宿駅ビル・プチモンドに於いて、関東支部同窓会を盛大に開催しました。

吉野トヨ子支部長の挨拶に始まり、高齢の会員から、卒業間もない会員迄50数名、終始和やかなムードでした。

青春の一時期、同じ大学で学んだ者同志の熱い想いは、とても短時間では語りつくされるものではなく、互に再会を約束しました。

今までどうして関東支部を結成しなかったのかと、出席者会員一人一人が反省したことでした。自己紹介の折のエピソードです。

「同じ町内で、ゲートボールのチームメイトがお隣りに坐って居るので、びっくりしました。〇〇さんが同窓生だったとは……」

ゲートボールをなさって居て、全く知らなかったという話に、会場は拍手喝采、大いに盛りあがりました。予定時間を大幅に越え、3時すぎ散会しました。

文責 伊藤さち子(体育)

お知らせ

来たる昭和62年6月14日(日)正午、東京都千代田区飯田橋1-1-1(TEL 03-264-1111)ホテルグランドパレス(地下鉄東西線、九段下駅下車)において、第3回中京女子大学同窓会関東支部総会を開催いたしますので万障お繰合せのうえ多数ご出席お待ちしております。

本日は母校より学長先生ご出席いただく予定です。なお準備の都合もありますので来る5月20日まで正副支部長宛ご連絡願います。

連絡先

〒 332

川口市並木町4-24-10

TEL (0482) 52-0580

吉野トヨ子

〒 341

埼玉県三郷市彦坂3-11-10-1005

TEL (0489) 57-3898

水野久

新会員のこえ



— 昭和61年度新会員について —

昭和62年3月21日には、大学203名・短期大学部159名の方が卒業され、全員同窓会に入会されました。

昭和61年度新会員数

学 部	学 科	人 数
体育学部	体育学科	104名
家政学部	児童学科	77名
"	食品・栄養学科	22名
短期大学部	体育学科	108名
"	家政学科	51名
	計	362名

● 思い出に残る研修旅行

中京女子大学勤務

繁田 泰代

(昭和61年度
体育学部体育学科卒)

4年前、はじめて両親のもとを離れ、不安と希望を胸に大学の門をくぐりました。今まで、親の温かい愛情に、どっぷりとつかりすぎていた私は、寮生活が始まると、自分の力ですべてこなさなければなりません。

当然のことが、当然として出来なく、あらためて両親に感謝の気持ちで一杯になりました。いま、4

年間の大学生生活をふりかえってみると、特に印象に残ったことは、夏休み(オリンピック期間中)に一月間のアメリカ研修旅行に参加したことです。アメリカに足を踏み入れ、あまりにもスケールの違いに驚き、見るものすべてが珍しく、新鮮でした。研修内容は、月曜～金曜日の午前中はクラス別英語の授業、午後はヨットやウインドサーフィン等のマリンスポーツを7種目行いました。これらの説明もすべてEnglishでしたが、ゆっくり話していただき、また、ゼスチュアをまじえながらの説明なので、比較的わかりやすく、実際にやって、コーチが「Very, Good, Good!」と叫ばれると、思わず嬉しくなり、笑顔が出たり「やった」と叫びました。

終末は、Sea, World, San Diego Zoo.やロサンゼルスオリンピックの陸上競技を観戦しました。幸いにも、この日は男子100m、カール・ルイスのレースを見ることが出来、大勢の観衆と共に興奮によることは今だに脳裏からはなれません。この研修旅行を通して、習慣の全く違うアメリカで、いろんな人々に出会えとても良い思い出になりました。

4年間のクラブ活動では、先輩、後輩との出会って学んだことが沢山あります。また、他学部他学科の人たちとも友だちになり、真剣に語り明かしたこと等、良き先生・仲間に出会えたことは、私にとってかけがえのない財産になりました。

この4月から、大学の職員として勤務しております

す。戸惑うことが多い毎日ですが、一日一日を大切に、精一杯頑張っていきたいと思います。大先輩諸姉のみなさまはじめ、同窓生のみなさま、これからどうぞよろしくご指導下さいますようお願い申し上げます。

●園児と共に

アソカ学園附属
朝日幼稚園勤務

新村 千 昌

(昭和61年度
家政学部児童学科卒)



大学生生活の4年間は、本当によく遊びよく学んだという気がします。

すねかじりの身でありながら、国内外共にたくさん旅行をしました。旅先の風景、文化の香りが私の中に染みこみ、心の財産となっています。ヨーロッパ研修旅行で、パリの幼稚園・ミュンヘンのシュタイナー・シュレを訪問できたことは、現在教育者としての第1歩を踏み出した私にとって貴重な経験でした。また、ゼミやサークルなど学生時代にしか味わえない活動も、本当によい思い出であり、学生生活を語るほとんどのものであると思います。そして、幼稚園・小学校への教育実習、これは、今の私にとって一番心に残っているものです。

現在、私は幼稚園で、35名の年中児を担当しています。4月4日、初めて子どもたちに会った日、この日は一生忘れないと思います。3月から実習に行っていたとはいえ、なじみの少ない顔が急に“自分の先生”になったわけですから、子どもたちも不安があったのでしょう。少々上目づかいで私をジューッと見つめるのです。そして、驚くほどうまくことが進んでいくのです。「なんて素直な子どもたちだろう。」と感激してしまいました。しかし、それが3日もたつと……。こんなはずではなかったのと思うことばかりです。やはり、世間一般的なやんちゃな子どもたちばかりでした。あらあらと思いつつも、一方では子どもたちと私の間が狭まったものと実感し、安心しました。また、幼稚園とはいえ、1クラスを経営していくということでは、小学校実習での経験がとても役立っています。学生時

代に良き指導者に恵まれ、いろいろな経験をしてきたことが、実践の場で思いおこすことが多く、大変幸せに思います。試行錯誤の毎日ではありますが、子どもたちにとっては一生に一度の時間です。新米だからなどと言ってはられません。子どもたちのためにもがんばらなくてはと、かたく心に誓っています。

最後になりましたが、母校の発展を心より期待すると共に、諸先輩方のよき御指導を心よりお願い申し上げます。

●家庭科教師としての 第一歩を踏み出して

愛知女子商業学園
高等学校勤務

佐久間 祐 子

(昭和61年度
家政学部食品・栄養学科卒)



現在、愛知女子商業学園高等学校に勤務しております。1学年が約1,400名という大きな学校で、商業科2年生の家庭一般と礼法を受け持っていますが、自分の勉強不足を痛感している毎日です。しかし、以前からの夢であった仕事に就くことができたので、張り切っています。

家庭一般という教科は、英語・数学・国語などのように週に何回も授業のある教科ではなく、1週間に1回ずつしかないので、各クラスの雰囲気をつかむのに苦労しています。また、同じ授業をしても、クラスによって反応が違っているので、その反応に一喜一憂しています。家庭一般という教科は、いろいろな分野がありますが、専門外の被服を受け持つことになった時は、学生時代に洋裁・和裁を習っていた事を喜び、かつ、洋裁・和裁を習うように勧めてくれた母に感謝いたしました。同様に礼法の授業についても言えます。それは、高等学校に入学した頃から続けていた茶道の稽古と学生時代の剣道部の経験がこの礼法の授業に生かせるということです。しかし、礼法を習っていたわけではないので細かいことは、先輩である諸先生方に教えていただきながら授業を進めています。

私の勤めている高等学校には、私の先輩、つまり中京女子大学および短期大学の前身である師範科

を卒業された方が何人かいらっしゃるの、とても心強く、何かと助けていただいています。このように大先輩方が活躍されているのを直接拝見すると私自身もがんばらなくてはならないと思っています。母校の益々のご発展をお祈り致します。

● トレーニング&コミュニケーション

名鉄スポーツクラブ
大曾根勤務

伊藤 雅子

(昭和61年度
短期大学部体育学科卒)



名鉄スポーツクラブに入社して、はや一ヶ月が過ぎようとしています。現在、エアロビクスとジャズダンスの勉強をしながら、フィットネスジムのインストラクターをしています。一年八ヶ月という同クラブでのアルバイト期間からの引続きという事もあり、他の人達の“就職”とは少し違ったケースではないかと思えます。新鮮味は余り有りませんが、仕事内容も分かっているし楽だろう…と考えていましたが、やはりアルバイトとは違い、長い間何をやって来たのだらうと思える程、知らなかった事も沢山あります。生きていく上で最も大切な健康…その健康づくりの場で仕事出来る事をとても幸せに思っています。スポーツクラブは、トレーニングと同時にコミュニケーションの場所でも有り、人との対応は難しく、頭を抱えている部分も有ります。半面、一日の内でもとても多くの方々と接するので、新しい情報なども入ってきます。会員の方々は、年齢や職業も様々で、それぞれの立場で見た社会の色々な様子、出来事など話して下さり、プラスになる事も多々有ります。ともすれば忘れがちですが、相手の立場に立って行動し、全ての方に平等な態度で、心をこめて接する事が出来る様なインストラクターになりたいと思っています。クラブには、同大学の先輩が二人おられ、水泳の方で活躍されています。大変親切にして下さり、又指導の様子を見学しても明るくはつらつと自信を持った教え方をしているの、分野は違っても見習いたいと思います。今、振り返ってみますと、二年間の大学生活で学習して得た事、すなわち、他大学と比べ集団行動が多く有っ

た事により得た人間関係の大切さなどはとても貴重な基礎になっています。気分良く・楽しみながらトレーニングして頂ける様、明るい雰囲気づくりを心がけ、社員の方々と協力していきたいと思えます。

● 会社にとって役立つ人間に

ワシノ風力K.K勤務

成田 枝美

(昭和61年度
短期大学部家政学科卒)



学生生活が、まだぬけ切っていない状態の中で、4月1日、この会社に入社いたしました。さっそく、4月1日～4月8日まで、新入社員に対しての集合教育が実施されました。

この内容は、社会人としての心構え・マナー・会社の沿革・就業規則・給料の説明・品質管理・職場の安全性・会社の製品・各工場の役割等で、その間途中1日は、チームワークの大切さを知るために、色々なゲームが行なわれました。昨年の集合教育は、2日間で終わっていたものが、今年から期間が延長されました。その理由は、トータル的に会社の内容を良く理解・把握させ、どこに配属されてもいいようにということにあるようです。わたくしは、この集合教育で得た知識が、どれほど身についているか不安はありますが、努力する以外ありません。現在配属されたところは、業務部業務課の管理部門であり、男女含め人数が一番多いところです。

何もわからないで実習に入り、8日間の集合教育を終了して、はじめて手がけた仕事は、お茶当番そして書類のチェックでした。しかしこの仕事は、いつまでにやって欲しいと云う期限がない仕事であり、いまはマイペースで進めております。しかし、ふとこれでいいのかしらと思うことが多い毎日です。また電話がなっても受話器に手が出ない、お客さまがみえても要領がわからないものですから、机にへばりついてしまいます。これでは、会社にとっても、自分にとっても役に立っている人間でないと悩みの毎日の毎日ですが、一日も早く仕事を覚え、「私は会社の役に立っているのだ」と胸をはっていえるようになりたいと思っています。

会員のこえ



● 青年海外協力隊の一員として スリランカへ

中京女子大学勤務

堀川 真美

(昭和60年度
体育学部体育学科卒)



大学時代はハンドボール部に所属し、興味のあるトレーニング関係の書物に読みふけていた私は、体育学部を卒業し、学生課に勤務して2年目になります。私の主な仕事は学内の学生寮(108名)に住み込み、学生と大学をつなぐパイプ役として寮生活を改善していくことです。

昨春から、第1寮が研究棟になったため、寮は1つとなり、そこに住み込んでいます。私は大学で寮生活の経験がなかったため、それまで寮内の運営がどのようになされていたかを知ることから始まりました。私がいいるまでは職員不在の寮だったため、清掃はいい加減で、クラブの延長の様なこともしばしば見られ、学生任せの寮運営でした。そんな中で、学生にそっぽを向かれたり、仕事と私生活の区別ができず悩んだり、様々なことがありましたが、一人一人が寮の構成員であるという自覚を持ち、寮則を守り、お互いが自分自身を鍛える場になるように学生に呼びかけてきました。そこから、お互いを認め合うことの大切さや本物の見えにくくなった社会の中で本物を見出すことの難しさ等を学ばせていただきました。また、周囲の環境を変えるには、まず私自身が一人の人間として成長していくことが必須であると思い、自らを叱咤してきたことは得がたい経験となりました。

1年経った今、仕事にも馴れ、寮内の環境も少しずつ改善されてきましたが、私の奉職も残り3か月足らずとなりました。というのは、青年海外協力隊の体育隊員として、今年12月から2年間スリランカへ派遣されることになったためです。大学入学当初は高校の教師になるつもりでしたが、協力隊の活動内容を知れば知るほど参加したくなり、昨秋の募集

に応募し合格したものです。わが国ではなおざりにされがちなアジア諸国との交流を深めるためにも、現在自分にあるものをすべて出し尽くつもりです。

今後は、大学での残り少ない日々を大切に、母校発展のために微力ながら頑張っ参ります。

● エアロビクスと私

アカディーム

・ツザカスタジオAT主宰

津坂 とし子

(旧姓・金田)

(昭和49年度
体育学部体育学科卒)



中京女子短期大学体育科を昭和33年に卒業と同時に、現附属女子高校に勤務・結婚・出産・退職し、10年間3人の子どもの子育てに奮闘し、ふと、もう一度教師として教壇に立ちたいと言う気持ちがふつふつと沸き、子育てと大学での勉強を両立させてみたいと考える一方では、10数余年間のブランクで体力の低下、さらに肥満体と言う悩みなどで、決心がつかかねておりました。

しかし、この時を失ってしまったら、今後に苦いを残すことになると、思いきって母校の恩師をたづねました。幸いにも、恩師の力強い進めをいただき、体育学部3年に編入することができました。

若さあふれる14才年下の学生との授業は、自信の持てるものなど何もありませんでした。編入生であるため、3年、4年とも90分授業が1日4コマと、びっしりしたスケジュールでした。特に体育実技は、10数余年間のブランクは、苦しかったとしか言葉に表現出来ません。

しかし、幸いにも諸先生方の温かい励ましやご指導をいただき、懸命に努力いたしました。

卒業論文は、社会体育の分野を取りあげました。夏休みには、名古屋市内のスポーツ教室の見学やアンケート調査に出かけ、ますます、社会体育に大きな興味をもつようになりました。

ドイツの国民スポーツ・ゴールドンプラン・トリム運動等にも強い関心をいただきました。また、その

頃、地域の主婦グループから健康のための体操指導の依頼があり喜んで引き受けさせていただきました。施設等のないなかで、共にプログラムの立案・施設さがし、夜9時からのジョギング等、いろいろな苦勞もありましたが、大変たのしく長続きしました。

その運動効果を日本体育学会第26回大会（昭和50年9月）において発表。また「体育の科学26巻」に掲載されましたので、婦人の体力づくりに関して継続研究し、その効果を第30回大会まで5年間発表させていただきました。

振りかえってみますと、私とエアロビクスとの出会いは、第26回大会のときで体育社会学の部門で「エアロビクトレーニング運動効果」について、神戸大学の先生の発表を拝聴し、後日、大阪へ出向いて、クラブを見学させていただきました。

その頃、次々と教室が開設され講師依頼を受け、文化センター・クラブ等を数ヶ所飛びまわっておりました。この頃、わたくしも自分のスタジオが欲しいと思いつづけておりましたところ、幸いにも昭和56年11月、名古屋の中心「栄」にスタジオ・アカデミー・ツザカを開設することができ、6年目に至っています。また、60年にインストラクター養成コース（アカデミー・ツザカ・スタジオA T）を開設、現在は7期生が勉強中であり、遠くは、長野県松本、三重県の名張、岐阜と中部近県から数多くの受講者があり、終了後のメンバーの活動は、すでに、スタジオをオープンした者もあり、皆それぞれ地域で活躍しております。

エアロビクスは、科学的データに基づき総合された運動だと思います。これからも自分の健康を考え、年齢相応に挑戦し頑張るつもりです。母校には大変お世話になりました。大学で学んだことを折につけて会員に話し、それぞれ自分の道をしっかり進んでほしいと願っています。それが、お世話になった皆さまへの恩返しにつながると信じております。



● 子供と共に歩み続けて

名古屋市立大高幼稚園勤務

杉本 しき子

(旧姓・上野)

(昭和45年度
家政学部児童学科卒)



同窓生の皆様いかがお過ごしですか？各分野でご活躍のことと存じます。

私が昭和46年3月に卒業してから、早いものでもう16年が経過しました。現在は名古屋市のはずれで、大学のある大府市とは隣り合せの緑区大高町で幼稚園教諭として働いております。

就職して1年目は、毎日が驚きの連続でした。教師という職業がいかに大変な仕事であるか思い知らされました。幸いなことに、1年目はクラス担任がなく、フリー教諭として先輩方の保育をみせてもらうことができ、いろいろと勉強することができました。しかし、1年後実際にクラスを持ってみると、外から見るよりもっと大変で、毎日が戦争のようでした。対象が幼いだけに細い配慮が必要で、ほんのちょっとしたことでも教師の配慮が足りないと、大げかをするにつながつたり、子供の心を傷つけたりする結果になります。16年を経た今でもまだまだ子供の心をくみ取ることができず、1日を終わると反省することばかりです。子供と共に生活していく中で、子供の心を育てていくことの大切さを痛感しています。

私自身も、教え子と同年齢の子供を持っており育児の真最中です。これだけやったからもういいという職業ではないだけに、家庭との両立で悩みました。特に子供の病気の時、参観日など、母親としての役目を果たすことができず、これでいいのだろうかと自分を責めることも多く、“やめよう”と思ったことも何度かありました。しかし、仕事を通じて人間として自分が成長することで、いつかは、子供にわかってもらえる時がくるのではないかと思い、それを励みに頑張っております。

最後に母校のご発展と同窓生の皆様のますますのご活躍を心からお祈り致します。

● 大切なのは作る人の愛情

株式会社 ミツオ勤務

中川 泰代
(旧姓・富田)

(昭和46年度
家政学部食品・栄養学科卒)



徳島から出てきて19年。もうこちらでの生活の方が長くなってしまいました。

卒業後、名古屋市立女子短期大学に食品学の助手として勤めました。はじめは、卒論の続きの様で毎日が楽しく充実していました。大学で学んだことがそのまま役立つという安易な考えで研究者を夢めておりましたが、まもなく、ご指導くださる教授が病気で倒れられ、研究課題や方向さえ決められない自分の未熟さを知りました。どこの社会でも同じでしょうが、勉強しない者には厳しい世界でした。結婚と並行して勤務を続けておりましたが、長男が聴覚障害ということが分かり、54年秋に退職、子育てに専念していました。ちょっと休憩という時期でしたが、いろいろな先生やお母さん方と知り合い、人間的な勉強をさせてもらいました。

60年秋、友人の紹介で今の会社に就職。この時には、結婚直後取得した管理栄養士の資格が役立ち、給与で特別待遇してもらいました。

とはいえ、6年間のブランクは大きく、献立作成、栄養価計算、食品衛生指導、何もかももう一度教科書の読みなおしです。

昨今の健康ブーム、グルメブームで食品業界は注目されています。わが社も、レストランや給食産業への食材の提供と職員食堂等の経営をを行なっています。あらゆる分野の多種多様な食品が氾濫して、口の肥えた喫食者が多く、味・栄養そして営利面を含むメニュー作りに大変苦勞しています。ファッション化された食事作りには、今や調理の技術や知識よりも、センスが一番ものを言います。

売れるメニューと、栄養・健康的なメニューとのジレンマに悩みながら……。しかしなんととっても大切なのは、作る人の愛情だと確信して今日も頑張っています。

最後になりましたが、母校の益々の発展と同窓会

の皆様のお活躍を心よりお祈りいたします。

● 楽しいジャズ体操を

日本ジャズ体操指導者
連盟会員

愛知ジャズ体操連盟会長

西川和子ジャズ体操
研究所主宰

西川 和子
(旧姓・市川)

(昭和42年度
短期大学部体育学科卒)

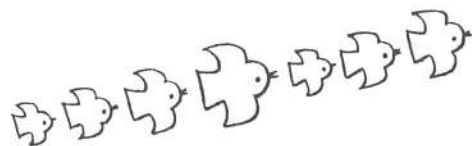


卒業して今年で20年になりました。4年間高校に奉職後、中学校の産休講師を経て12年間程運動とは全く縁がなく、その間に体調を崩し病院通いやら薬は毎日飲み続けるという有様で、何んの為に長い間体操して体育教師をやっていたのか情ない思いでした。昭和58年2月よりジャズ体操を始めました。

健康の為に始めた体操も、現在では私のライフワークになり、生命ある限り続けるつもりです。週一度の東京本校のレッスンも4年目になります。また、世界3大体操祭であるドイツのツルフェステに参加し、今年は、7月4日～18日までデンマークで開催されるギムナストラダに日本代表として参加いたします。

昨年の12月14日は、母校の体育館を拝借して盛大に「ジャズ体操講習会」を開催いたしました。これも私のクラス担当であった溝口先生の多大なご協力があり大変感謝をし、やはり母校は暖く、いいものだなあと感じております。また、クラスの仲間とも連絡を密にし情報交換、親睦を続けており、8月8・9日には下呂方面で恩師を囲んで集合するのを楽しみにしています。

現在、学校体育、社会体育指導者、主婦グループの指導をしており、体育嫌いの生徒達にいかにして楽しい授業をするか、生涯体育として誰でもどこでも気軽に出来る魅力ある、楽しいジャズ体操をモットーに普及努力したいと思っております。



〈特集〉

母校の発展と私

瑞穂短期大学教授

福江 昭子

(旧姓・鈴木)

(昭和28年度
短期大学家政科卒)

昨秋中京女子大学スポーツサイエンスセンターの竣工式典のご案内をいただきました。なぜ私ごとき水面下の者がこんな晴れがましい席へ出させていただけるのかと思ひながら、久し振りに母校を訪れました。

素晴らしい施設の体育館ができる、かねてから受け賜わっていましたが、式典後くまなく内部施設を見せていただき、その充実振りに目を見張ると同時に、現在ここで学ぶ後輩の皆さんは何と幸せなことかと痛感しました。私が学んだのは東新町の木造校舎でした。

私は昭和29年に卒業しました。在学中は不器用人間で、何を縫ってもさっぱり見栄えがなく、落ち込んでいる毎日でした。力不足を感じ卒業後気を取り直し被服関係の勉強をふたたびしました。

その後、現在勤めている学校に奉職し30年余になります。短期大学といえど四年制の大学と同じように、教育と研究は大学人として推進しなくてはなりませんので大変忙しい毎日を送っています。しかし研究活動でえた裏付けのある講義をしますと、説得力があるのか学生たちは一言の私語もなく目を輝かせて聞いています。そんな姿をみると毎日の苦しさも何処かえ吹き飛んでしまいます。昨今は、学内の忙しさに加えていろいろなところへ引っ張りだされて時間不足がみえます。そんななかでごく最近、被服の研究活動をしてよかったと思える感動的なことがありました。

それは「阿弥衣」(愛知県指定文化財)にめぐり会ったことです。これとの出会いは次のようないきさつがあります。阿弥衣は碧南市称名寺(時宗)の宝物庫にあるもので、その宝物庫全体の基礎資料作りの調査が愛知教育大学新行紀一教授を中心に62年3月から4月始めにかけてあり、阿弥衣については、私の所属している日本風俗史学会中部支部のメンバーが、名古屋大学渡辺誠教授(考古学)をトップ

にして、手にとり細部にわたり記録をとりました。

阿弥衣とは、称名寺二祖他阿真教上人(14世紀の人)が着用したもので、麻の繊維を横にならべて作ったもので織物ではなくアンギンといわれる編んだもの。このような貴重なものは博物館や民族資料館のガラス越しに見ることは容易ですが実際手にして記録を取ることはやはり研究者でなくてはできないことです。

称名寺の宝物庫の調査は今回で終わるそうですから阿弥衣については、私どもが記録したものが文化財の資料として後世に残ると思います。調査を終え阿弥衣を年代ものの桐の箱に入れ、箱に向かって両手をつき深々と頭をさげた、その感激は私の最初で最後の味わいでしょう。

私の研究対象物は、決して世の脚光を浴びるようなものではありません。現在調査を手掛けている被服関係のものが、50年・100年後の人たちの目にふれ私の住んでいる今の世から次の世へと僅かでも文化の掛橋になればと、ささやかな気持ちでやっています。しかし大きな努力はしています。

大学というところは、個々の努力、その結果の業績やその他諸々のことが評価され、助手から講師へ、助教授から教授へと昇格するものですから毎日毎日が勉強の連続でした。その道の指導者を求め大学人としての姿も追及しました。幸にも私は周辺の人たちの理解により、よき師にも恵まれ途中転動することもなく現在の学校で、一貫した教育を学生たちにすることができました。このことは教育効果が上がり大変よいことであつたと思っています。

今日の私のあるのは、基礎教育を受けた中京女子大学があつてこそといつも思っています。また中京の卒業生だから被服関係のことは任せておいても大丈夫と周辺からいわれます。これもひとえに私よりずっと前に卒業された大先輩(女子専門学校時代の諸姉)の社会的評価が高かつたおかげと感謝しています。

こんな平凡人の私に、最初に述べたスポーツサイエンスセンターご披露の招待状が舞い込んだのですからびっくりしました。今でも、多分卒業生名簿から招待者を選ぶとき行を一行読み間違えられたと思っています。あの時の龍村のハレー彗星を模した

望みの大きいテーブルセンターは、ささやかな我が家の一角を美しく飾っています。また、現在在学中の後輩の皆さんは宇宙の本物のハレー彗星を見るが如く心を弾ませて体育館の緞帳をみてスポーツに勉学に励んで記録に挑戦しておられることでしょう。

注 アンギン イラクサ科のアカソ、カラムシなどの植物繊維を原料とした糸を編んだ布。編む道具は、ケタにする横木とそのケタを支えるY字型の支え木二本と縦糸をぶらさげる木製のコモヅチから構成されている。編み方は、縦糸をコモヅチに巻きつけてケタにぶら下げてから、横糸をケタに載せて、コモヅチを交互に動かして俵や簾を編むのと同じ方法で編んでいく。

この方券で編んだ布は、縄文遺跡からも発見されて昨今話題になった。しかし、この編み方の布で衣服を作ることは明治初期に姿を消した。地上に現存するものとしては、時宗の寺に僅か残っているものと、新潟県山間部で明治初期まで衣類として着られたものが、土地の民族資料館に文化財として残っている。

昭和53年度

大体卒業生の同期会だより

昭和61年8月25日、夏、大府町の“みかど飯店”にて第1回大体ファミリークラス会が開催されました。(大体ファミリーとは、当時の我ががクラスの呼称)。昭和54年3月に体育学部体育学科を卒業して以来、なんと7年半ぶりのことでした。

どこからとなくぜひクラス会をという声があがってから、住所・電話の確認に1ヶ月間を用し、連絡は、1週間前から電話で呼びかけあうというあわただしさでした。しかし、67名中27名が子連れで集まりました。初めは、大府市中心にという幹事の試みでしたが、最終的には、兵庫・福井・滋賀・岐阜・大阪と広がりました。また当時クラス担任で現在も中京女子大学でご活躍中の堀本宏先生もご出席下さり、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

各々の近況報告の中からご紹介致します。

- 2才と4才の男の子がいます。只今主人が単身赴任のため気ままな母子家庭です。(節子)
- いまだに一人で眼科につとめています。(ちぐさ)
- 主人が12月より約3年間の予定でアメリカ・カ

ナダへ赴任することになり家族4人で渡米します。
(香千代)

- 只今男の子2人のママとして、仕事と家事の両立で頑張っています。(三枝子)

- 教員生活8年目、そろそろいい年になってきました。5年前は、体育館もプールもなく校内荒廃の嵐が吹きあれていましたがやっと落ち着き、真新しい体育館とプールで頑張っています。現在子供1人同居家族4人、計6人の大家族で結構気ままにやっています。(揚子)

等々…。卒業後の人生はさまざまですが、学生時代を共に過ごした仲間との語らいは、7年半もの空白を感じさせません。確実に、顔の小じわは増え、体脂肪はつき、年も30代となったのですが…。

最後に、堀本先生をはじめ学生課のご好意で母校の新体育館を見学させて頂きました。私達の時代には想像もつかない施設・設備の完成も間近と感激するばかりです。

久しぶりの新鮮な刺激に心地よくなりながら「また会おうね!」の言葉で母校を後にしました。

このような会がもたれたことに感謝するとともに母校の発展と同窓会の皆様のご活躍を心からお祈り致します。

文責 (喜多村友子・飯本たかね)

新体育館完成にともなう記念品は

「健康の女神」の

ブロンズ像に決定

昭和61年10月26日(日)、第7回中京女子大学同窓会総会においてブロンズ像を寄贈することが決定されました。その後、モニュメント準備委員会を発足し、大先輩諸姉をはじめ大学関係者のご協力をいただきまして「健康の女神」のブロンズ像に決定されました。

I. 提唱者 森田穰教授(家政学部長・医師・医学博士)

II. 制作者 鬼頭正信先生

プロフィール

- 1949年愛知県大府生れ・東京芸術大学大学院修了、工房カオス主宰・愛知教育大講師

- '75~日展・日本現代工芸展・日本新工芸展・刻展等に発表

- モニュメント制作歴

鹿児島県立青少年研修センター・'76年、愛

知県立大府東高校・'83年、大府市大倉会館・'84年、大府市体育館・'85年等。

Ⅲ. ブロンズ像および制作費用について

ブロンズ像は、銅製（ブロンズ像の高さ1.8メートル、台の高さ2メートル）で、一体350万円ですが、制作者のご好意より、金額以上のものになるよう精魂こめて制作していただける予定です。

Ⅳ. 寄附金の募金方法について

総会において、お力づよいご意見をいただき、会員の皆さまがたからご寄附を集ることになりました。

同封の趣意書の趣旨にご賛同いただき、お一人でも多くの方々のご協力を賜わりすようお願い申し上げます。

- 1口・2,000円（1口以上お願い申し上げます）

なお、募金機関は、昭和62年12月31日（木）までとさせていただきますが、あらかじめ同封の葉書にて振込み前に寄附金額を6月25日（木）までにご連絡下さいますようお願いいたします。

Ⅴ. 除幕式について

除幕式は、昭和62年7月上旬^{*}のスポーツサイエンスセンター内に併設されたコミュニケーション研究所および健康科学研究所のオープニングと一緒に行ないたいという希望を持っております。ご出席いただける方には、日時等が決定次第お知らせ申し上げます。お一人でも多くの方々のご出席をお待ち申し上げます。

※コミュニケーション研究所および健康科学研究所のオープニングが、まだ7月上旬ということしか決っておりませんので、何卒ぞご了承下さいませ。

同窓会会費納入についてのお願い

昭和53年2月に発足いたしました中京女子大学同窓会も今年で11年目を迎えました。その間、昭和57年10月の第5回同窓会総会において、中京女子大学および短期大学部の前身（中京高等女学校家事体操専攻科・中京高等女学校家事裁縫専攻科をはじめ本学の前身と認められる学科を含む。）である昭和26年以前の大先輩方も、大学同窓会に入会していただけることになりました。一方、その間の運営は、会員からの会費を当ててまいりました（ただし、会費納入者のみ）。また、同窓会ニュース（No.1～No.7）等も会費を納入していただいた方のみにお送りしてまいりました。このことから、一部の会員の方々か

ら何の連絡も受けていない等のご不満の声をいただきながら今日に至っておりますが、一昨年ようやく同窓会会員名簿も出来まして、このたび全員（住所不明の方を除く）の会員の皆様（約9,000名）にご連絡させていただけることになりました。これを機に、会費未納の方は是非納入していただきますようお願い申し上げます。

なお、昭和45年度以前に卒業された方は、なでしこ同窓会に入会されており、昭和57年10月になでしこ同窓会より20万円を入会金としていただいておりますので、あとは終身会費5,000円を納入していただくこととなります（未納の方のみ）。

また、昭和46年度以後の方で会費等未納の方は、入会金3,000・終身会費5,000円を納入していただくこととなります。

どうか皆様、このことにつきましてご理解をいただき同封の振込み用紙にて、郵便局よりご送金下さいますようお願い申し上げます。

同窓会会員名簿（第2版）の発行について

昭和60年8月に、会員の皆様方からの賛助金によって発行いたしました同窓会会員名簿（2,000部）も、残り僅かとなり、昭和63年2月に第2版を発行することとなりました。初版の不備なところは改め充実したものにしたいと思っておりますので、住所変更・訂正箇所・ご意見等がございましたら、ご連絡下さいますようお願い申し上げます。

連絡先 〒474 大府市横根町名高山55
中京女子大学同窓会 TEL(0562)46-1291(代)

あ　と　が　き

ご多忙中にもかかわらず、原稿をお寄せいただきました皆様、本当に有難うございました。本務の合間をぬっての作業で、何かといきとどかないことが多々あり、申し訳れなく思っております。どうか皆様これからも同窓会・母校の発展にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

母校も激動の中にありながらも、着々と施設や教授スタッフの充実がはかられております。どうかお近くにおいでの際は、是非お気軽に、母校にもお立寄り下さいませ。（S.N）